

スポーツで地域活性化

総合サイクル業の糸井商事(高崎市上大類町)の糸井丈之社長とフリーキャスターの伊藤聡子さんが「群馬創生」をテーマに語り合う対談シリーズ。3回目は、プロ野球独立リーグ、ルートインBCリーグの群馬ダイヤモンドペガサスにスポットを当てた。ペガサスはNPB(日本野球機構)を目指す選手たちの活躍の場としてだけでなく、地域貢献活動にも力を入れており、プロスポーツによる地域活性化の在り方を考える。

地元支援で運営安定化

伊藤 ペガサスは今年で15年目のシーズンとなり、これまで日本一2回、リーグ優勝5回を果たし、2014年にはNPBのヤクルトや巨人などで活躍したアレックス・ラミレス選手が入団して注目を集めました。地域に愛されるチームに成長した球団の創設経緯を教えてください。

糸井 現在のルートインBCリーグの前身である北信越BCリーグが新潟、富山、石川、長野の4県で07年にスタートしました。Jリーグのアルビレックス新潟で会長を務める池田弘さんが主導し、各地の青年会議所OBが地域おこしの一環で始めたリーグです。2年目以降、地域を拡大していきたく、青年会議所OBのつながりで群馬の球団立ち上げの話が私に寄せられたことが始まりです。

京セラ創業者の稲盛和夫さん(故人)が説いた「勤労者なりや、私心なかりしか」という考えが私の生き方の指針となっています。稲盛さんが「地域貢献が会社の業績や雇用にも役立つ」とおっしゃっていたこともあり、「野球を通じて地域活性化できれば面白いだろう」と考えました。

一方、一部の人は地方でプロ野球球団なんかやっただけでいいんだ」という否定的な声もあり、1カ月ほど自宅の湯船に漬かっては、ぶつぶつと自問自答を繰り返しました。最終的に周りの方々からの後押しを受け、「自分がこの機会にやらなければ今後、群馬にプロ球団は立ち上がることはないだろう」と決心しました。

伊藤 ゼロからのスタートで苦労も多かったのではないですか。

糸井 リーグ参入初年度の

いよいよたけゆき 糸井商事社長、糸井ホールディングス(HD)社長。1954年、高崎生まれ。高崎高専卒業。野球の独立リーグ、群馬ダイヤモンドペガサスの球団会長を務める。NPO法人群馬外国人支援センター理事長、群馬eスポーツ社長。



糸井商事社長

糸井 丈之さん

08年は、リーマン・ショックが起きた年でした。立ち上げから何年かは赤字が続き、経営的に厳しかったんです。球団創設に反対だった妻からは「やめておけばよかったのに」と言われ、家庭ではしばらくの間、ペガサスの話題は禁句でした。

伊藤 安定した運営ができるようになったきっかけは何でしょうか。

糸井 14年に事務所を前橋から高崎に移したことが契機になりました。当時、高崎商工会議所の会場で、ペガサスの後援会長でもあった原浩一朗さん(故人)がスポンサー集めのチケットを無料で配り回ったんです。

伊藤 先ほどお話し出てきた池田さんはアルビレックスを率いている事業創造大学院大学の総長でもあり、交流があります。

池田さんはアルビレックス立ち上げの際、「新潟でプロスポーツなんかやってどうするんだ」と周りから反対されたんですけど、「一度スタジアムで試合を見れば、熱狂する理由が分かる」と何万枚ものチケットを無料で配り回ったんです。

フリーキャスター

伊藤 聡子さん



いとうさとし フリーキャスター、事業創造大学院大学客員教授。1967年、新潟県糸魚川生まれ。東京女子大卒業。事業創造大学院大学でMBA経営学修士取得。現在はコメンテーターとして「Cのあひこ」(TBSテレビ)などに出演し、地方創生をテーマに幅広く活躍する。

ペガサス×糸井HD

群馬ダイヤモンドペガサスの歩み

シーズン	監督	主な出来事
2007		群馬県民球団設立表明
2008		BCリーグ参入
2009		石川を3勝1敗で下して初のリーグ優勝
2010	秦貴司	
2011		清水貴之投手(ソフトバンク育成4位)、廣神聖哉捕手(阪神育成1位)がNPB育成ドラフトで指名
2012		八木健史捕手(ソフトバンク育成1位)がNPB育成ドラフトで指名
2013	五十嵐章人	
2014		アレックス・ラミレス選手入団、2度目のリーグ優勝
2015	川尻哲郎	
2016		3度目のリーグ優勝、愛媛を3勝2敗で退けて初の日本一達成
2017		
2018	平野謙	4度目のリーグ優勝、香川を3勝1分けて破って2度目の日本一
2019		
2020		
2021	牧野豊	5度目のリーグ優勝、速水隆成捕手(日本ハム育成2位)がNPB育成ドラフトで指名
2022		

人間力磨く成長の場

糸井 球団を立ち上げる際に意識したのは選手のセカンドキャリアです。NPBの巨人や阪神の選手でも、野球だけでは一生飯を食べていけないのは、ほんの一握りです。野球を取った後、何の取りえもないというのでは、社会に出ても選択肢がなくなってしまうんです。そこで、選手が人間的にも成長できる場であるべきだと考えたんです。

初代監督にもそうだった理念に共感してくれる人を探していた時、ヤクルトなどで活躍した秦貴司さんを紹介してもらいました。当時、巨人から2軍コーチの話も来ていたといいますが、球団の方針に賛同し引き受けてくれました。

秦監督の下、「たけゆきを吸う選手は採用しない、茶髪、長髪、ひげは禁止」と球団の方針を決めました。その上で「しっかり相手の目を見てあいさつする。時間や約束事を守る」といった社会人の基本を徹底しました。これは普遍的な理念として、ペガサスの礎となっています。

球団を運営する中で、印象深かったことがあります。他球団のファンが「ペガサスの選手が帽子を取って元気にあいさつしてくれてうれ

しかった」と手紙をくれたのです。チームとして勝つことも大切ですが、球団の理念が浸透していることに感激しました。今では、選手たちが野球をやめた後も企業から引継ぎで、地域の盛り上げるスポーツが持つパワーの大きさを実感しました。

伊藤 選手にとってはペガサスで鍛えられた経験が引退後のステージでも役立つでしょう。企業や地域からすれば、選手たちが将来、貴重な人材となる可能性もあります。選手、企業、地域すべてにとって非常に良い循環が生まれているように感じました。

糸井 野球を通じて地域の発展に貢献していきたいという思いは、ほかのBCリーグの球団よりも大きいと自負しています。上のステージを目指して頑張る選手たちの受け皿として、もちろん、群馬の活性化に役立つことが一番の存在意義だと考えています。

一つの野球チームというだけでなく、地域に不可欠だと感じてもらえる存在になることが理想です。

地域に根差したプロ球団の在り方も同じだと感じました。子どもたちは選手の姿を見て憧れ、ファンは応援、支えることでチームの一員となって熱中する。こうしたスポーツへの熱が地域の誇りに

中学にOB指導者構想

伊藤 私は野球に詳しいわけではありませんが、高校野球の夏の全国大会はテレビを通して応援します。地元代表として、甲子園で戦っている姿に胸が熱くなりますし、活躍すれば誇らしく感じます。

地域に根差したプロ球団の在り方も同じだと感じました。子どもたちは選手の姿を見て憧れ、ファンは応援、支えることでチームの一員となって熱中する。こうしたスポーツへの熱が地域の誇りに



つながり、地元愛を育んでいくのだと思います。

糸井 ペガサスが培ってきた人的、物的資源を地域に還元するため、来年度に中学生硬式チームの立ち上げを予定しています。子どもたちが県内の強豪校や、次のステージへのステップとして切磋琢磨する場所となるでしょう。

本県では女子野球の環境が十分に整っていません。高校や大学、社会人で本格的に競技を継続するため、県外に行ってしまう選手が多いのが現状です。女子選手たちが県内で競技を続けるための受け皿にしていきたいという思いから、女子野球チーム創設の一つにはなります。

4回目は10月下旬に掲載予定です。

糸井商事の4つの事業



Shape a circulating society
~循環する社会をカタチに~

糸井商事株式会社

本社住所 〒370-0031 高崎市上大類町399 TEL 027-352-6335

群馬をもっと元気に
糸井ホールディングス株式会社

